

知的障害児の  
僕を生んでくれて  
ありがとう

三澤  
準

知的障害児の僕を生んでくれてありがとう◆目次◆

I	はじめに.....	5
II	なぜ僕を生んだのか.....	7
III	主体者は子供.....	23
IV	この子こそ母の宝.....	34
V	命を輝かして生きていきたい.....	52
VI	ここまで壊れてはいないんだ.....	93
VII	おわりに.....	131

# I はじめに

著者がこのような本を書こうとしたのは、脳裏から離れない理由があるからです。それは長いこと、知的障害児者に関わらせて頂いた時の至福の喜びとも言えましょうか。齢もすでに八十歳代半ばとなった今、考えてみれば、私の人生を生み出してくれたのも彼等です。出会いは与えるもの、そして、そこでは常に謙虚になることが必要です。その意味も分かってきます。この教えこそ、私にとって生きる貴い財産となりました。

したがって今回は、専門書ではなく、随筆・随想風にして自由な形式でまとめました。全編にわたって、知的障害児者の喜びや悲しみの数々が赤裸裸に語られています。

なお、この子供たちが何を考え、何を望んでいるのか、惑わされることも多いです。何が不満でパニックを起こしているのか。この笑顔は、誰に対して、何のために演じている

## Ⅱ なぜ僕を生んだのか

岩木 私が代弁者の岩木と言います。読者の皆さんと本音で語り合いたいと思っております。ですが、代弁者になりうるか否かの評価は、彼等にしてほしい気がします。

——僕が生まれたのは、昭和十二年の暑い夏でした。片田舎の八人兄弟の末っ子として。終戦直後でしたから、衣食住にも事欠く日々が続いていました。発育の遅れに気が付いたのは、小学校に上がる頃。兄たちのように走り回ることができると思っていました。今思うと、その希望はすでに閉ざされていたのです。僕は生涯にわたって「重度心身障害者」という看板を背負う」人生が待っていたのです。

この悲しい事実を父母も家族も、教えてくれませんでした。むしろ、大人になれない僕

[著者紹介]

三澤 準 (みさわ・じゅん)

1937年長野県生まれ

1961年・1962年名古屋大学教育学部研究生、上田薫教授のもとで「教育方法」について研修。知的障害児の教育と福祉について、57年間にわたり一貫して関わる。

知的障害児施設（八事少年寮）、中学校（特別支援学級）、特別支援学校勤務、東京教育大内地留学、国立特別支援教育総合研究所研修派遣（教育工学分野）、長野県教育センター専門主事、特別支援教育課指導主事、小学校・養護学校校長、特別支援学校校長会長、全国特別支援学校校長会評議委員、文教学院講師・療育支援センター顧問、学習指導要領編集協力者及び解説編集協力者（文部科学省）

障害福祉教育賞（NHK 厚生文化事業団）、下中教育賞（学習研究社）受賞

現在、NPO 法人就労支援センター顧問

著書：『伸びる子どもたち』（知的障害者育成会）

『知的障害教育の思想と展望』（信州教育出版社）

『人生に息吹をふきこむ』（ほおずき書籍）

『人間は足を踏み外した動物か』（ほおずき書籍）

『人間はもう一人の自分を背負って生きている』（ほおずき書籍）

『言葉は人間をつくる』（ほおずき書籍）

『続・言葉は人間をつくる』（ほおずき書籍）

『一路』（ほおずき書籍）

『共生社会への道』（ほおずき書籍）

## 知的障害児の僕を生んでくれてありがとう

2022年8月23日 第1刷発行

著者 三澤 準

発行者 木戸ひろし

発行所 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

☎ 026-244-0235

www.hoozuki.co.jp

発売所 株式会社星雲社（共同出版社・流通責任出版社）

〒112-0005 東京都文京区水道1-3-30

☎ 03-3868-3275

ISBN978-4-434-30815-4

乱丁・落丁本は発行所までご送付ください。送料小社負担でお取り替えします。

定価はカバーに表示してあります。

本書の、購入者による私的使用以外を目的とする複製・電子複製及び第三者による同行為を固く禁じます。

©2022 Misawa Jun Printed in Japan